



# お金と魂

Money Bias

永田円了

ビートルズは、“Can't Buy Me Love”（お金で愛は買えない）と歌い、ABBAは、“Money, Money, Money”（お金がすべて）と熱唱する。果たして、お金の存在は自分の人生にとって何なのか？

矢沢永吉は言う --- 僕は昔から銭がほしいと言ってきた。それはなぜか。安心感がほしいから。自分の底辺（お金）さえ持っていれば、己の魂を売ることもない。金がないと、したくない仕事も受けなければならない。だから僕は、一日も早く金を儲けたい。

お金の力、それはあたかも核兵器をもった国のよう。実際に使用しなくても、他国からの侵略を許さない安心感を与えてくれる。さて今回は、もう少し掘りさげる。お金を象徴的に「社会のものさし」、魂は「自分のものさし」と捉えて、この二項対立を検証したい。

## 社会のものさし（お金） vs. 自分のものさし（魂）

「社会のものさし」に、魂を売った男がいる。2005年に発覚した一級建築士・姉齒秀次の耐震偽装事件である。高層ビルを安く造るため、一級建築士の資格を悪用して偽装（鉄筋を減らすこと）を繰り返していた。当時の国会証人喚問で、彼は述べた --- 弱い自分がいた。仕事をもらうため、家族を養うため、仕方がなかった。

人生いかにあるべきか。お金（社会のものさし）を無視して生きることはできない。しかし魂（自分のものさし）はどうするのか。それぞれの人生を、もっと人類という大枠でとらえようとする勉強会がある。企業から派遣された経営幹部が学び直しをする会である（ETV特集「ねちねちと問う --- ある学者の果てなき対話」参照）。

コスパ、タイパ、マーケティング、金持ちになる方法などなど、損得勘定をベースにした How To 研修なるものが、やたらと多くある中、学びの王道をゆくこの会は、新鮮である。そもそも、自分は本当は何がしたいのか？ 今やっていることは、ただ「社会のものさし」に迎合して生きているだけなのでは、と問いかける。



「社会のものさし」に適合できず、かと言って「自分のものさし」にも自信がない。この二項対立の狭間で悩む小島雄一さん（27歳）、中一より不登校の生活を送っている。自分のまま、自分をゆがめないまま、人と向き合ってゆくにはどうしたらいいのか、思い悩む。

## 本当にやりたいことをやる

会社人間に徹すれば出世はする。しかし、それが本当に自分がやりたいことなのか。プロセーラー・海洋冒険家・白石康次郎（58）、ヨットで世界一周を5度経験。本当にやりたい自分と、頭と言動と行動が一致すると、どうなるか。僕のように、と語る白石氏の表情は、永遠の少年そのもので、すがすがしい。その逆に、自分の思っていることと、やっている事がずれると、身体の不調が生じ、最悪の場合、自滅の一途をたどることにもなる。

### <事例>

ビートルズ “Can't Buy Me Love” お金で愛は買えない  
 ABBA “Money, Money, Money” お金がすべて  
 矢沢永吉にとってお金とは？ 魂を売らないために、  
 一級建築士・姉齒氏／魂を悪魔に売った。家族のために仕方がなかった  
 ETV 特集「ねちねちと問う」京都大学准教授・宮野公樹氏  
 「社会のものさし」vs. 「自分のものさし」、二項対立ではなく  
 武蔵と沢庵和尚／「迷え、迷え」迷うことは人の心を広くする  
 迷う心をもたなくなった時、人は生きるのをやめる  
 ヘレンケラー／今日が人生の最期の日だと思って生きる  
 「人生とは、思い切った冒険なり。それ以外はただの藻くす」  
 海洋探検家・白石康次郎／本当にやりたいことをやる  
 森友問題／赤木俊夫氏自死、組織のものさしに潰された  
 歌・ブラザーズフォー「七つの水仙」

円了のホームページ：[www.enryo.jp](http://www.enryo.jp)

